

プーチン：「米が対話を拒否するのなら、どうしてロシアのシリア作戦を批判できるのか分からない」

【訳者注】プーチンは、ワシントンには「アジェンダがない」から「何も話し合うことがないのだろう」と言っているが、ワシントンに成り代わって言えば、アジェンダはないどころか大ありで、まず、アサドを倒し、次にはイランをなびかせ、最後には「プーチンよ、お前さんを倒すことだ」と言いたいのだが、それが言えないので黙っている。プーチンは承知の上で、相手の土俵には上がらず、あくまで、平和を求めるという常識を貫いている。プーチンが一枚上であり、腹黒い方が負けである。巡航ミサイルの性能でも、はるかに上であることを見せつけて、ワシントンをうろたえさせているらしい (Pepe Escobar: “Say Hello to My Cruise Missiles,” Oct. 13, 2015, Information Clearing House)。

RT (Russia Today)

October 15, 2015



シリアについて外交的に話し合おうというロシアの呼びかけを、ワシントンが妨害するのは、非建設的で、明らかに交渉の意志がないことを示すものだ、とロシア大統領ウラジミール・プーチンは言った。

「我々のアメリカのパートナーが、ロシアの、シリアでの反テロリズムの努力を批判しておきながら、この肝要な政治的問題の解決について、直接の対話を拒否するというのは、私に

はどうしても理解できない。」

プーチンがコメントしていたのは、オバマ政府が、シリア危機について二国がもっている違いを話し合うための、メドベージェフ首相を頭とするロシア代表団の受け入れを、拒否したことについてである。アメリカは、もしロシアがワシントンのリードに従わず、アサド大統領のシリア政府を助けるのをやめないならば、話し合う気はないと言った。

「私はこの反対は非建設的だと思う。この立場の弱点は、明らかにアジェンダが欠如していることにある。彼らは何も話し合うものがないようだ」と、プーチンは、カザフスタン大統領とのアスタナにおける会見で言った。

関連文献：「米が、シリアでの反テロ活動を調整しようという、メドベージェフ首相使節団を受け入れ拒否」 <https://www.rt.com/news/318634-us-refusal-russian-delegation/>

彼は付け加えてこう言った——ロシアの交渉の申し出を蹴ることによって、アメリカは自分の立場を崩している。なぜなら、彼らはシリアにおけるロシアの行動を批判するくせに、自分の気がかりを解決する方法を求めないからだ。

http://twitter.com/RT_com/status/654263651067494400/photo/1

ロシアは今月、シリア政府の要請を受けて、シリアのテロリスト勢力を狙った空爆作戦を始めた。その目標は、この暴力を鎮静化し、戦争に引き裂かれたこの国で、政治的対話ができるようにすることである。

ワシントンは、シリア政府が倒れることを願っている。そしていわゆる“穏健な反政府軍”がその空白を埋めることを願っている。彼らは、ロシアが、正真正銘のジハードイストでなく、これら“穏健派”勢力を爆撃したとあってロシアを責めているが、ロシアはその非難は当たらないと言っている。

<https://soundcloud.com/rttv/targeting-all-terrorists>